

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	上田市つむぎの家		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用者の保護者との信頼感	・送迎の際のコミュニケーションで利用時や家庭での様子について施設と保護者で情報を共有している。	・引き続き信頼感の醸成に努める。
2	・重症心身障害児にほぼマンツーマンで対応できている。	・利用者、家族の気持ちに寄り添った対応を心掛けている。	・処遇改善も行いながら現状の人員体制の維持を図る。
3	・月曜から土曜まで開所しているが、全員がそろう日は多くはないものの小規模な事業所なので職員間の意思疎通が回りやすい。	・朝礼や職員会議のほか、無料アプリなどを使って情報の一斉通知などを行っているほか、災害時の連絡体制の確保の一環としている。	・職員間でのフェイス・トゥー・フェイスでのコミュニケーションも重視する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	主に重度心身障害児・者に向けて生活介護、児童発達支援、放課後等デイサービスを行う多機能型事業所であるが、現在の利用者の成長により、事業の重点が生活介護に移行しつつある。利用定員を増やすことは、要員確保の点から容易ではないで、中・長期的な視点で施設のあり方を検討する必要がある。	・現在の利用者が障害福祉サービスに移行した場合の受け入れ可能な社会資源の不足 ・体制充実に向けた要員確保が困難である	・中長期的な視点での施設のあり方の検討
2	施設の移転により、市内の養護学校(支援学校)からの距離が増え、新たな利用希望者が見つかりにくい。ただし、現状では多機能事業所として生活介護の利用者が多く、新たな放デイ利用者の受け入れ余地があまりない。	・養護学校(支援学校)からの距離 ・送迎サービスを充実させるための人員が確保できない。	・相談支援事業所との連携によるニーズの掘り起こし
3	令和6年に現在の場所に移転したが、地域との連携等が構築できていない。	・利用者が重症心身障害児なので、地域内での交流のイメージがなかなか固まりにくい。	・地域包括支援センターとの連携